

令和 7 年版 設計業務照査要領

新旧対照表

設計業務照査要領新旧対照表

編	頁	現行(青文字:改正箇所)	編	頁	改正(赤文字:改正箇所)
設計業務照査要領	3	(記入方法及び提出) 5. 照査に使用する照査項目一覧表及び設計調書の記入者、記入方法及び提出は、次のとおりとする。 (4) 記入上の注意事項 1) 各報告段階において、照査内容が未定であったり、一度で確認がすまない場合や条件決定が順不同となる場合は、確認が済んだ事項に「○」印と「日付」を記入し、未確認の事項が明確になるように表示する。 2) 「照査項目」の中に、複数の確認事項がある場合（例えば関係機関協議が複数ある場合）または「照査内容」が漠然として発注者と受注者の確認の度合いが不明確になると思われる場合は、備考欄または別紙を利用して確認項目がわかるように記入する。 3) 業務内容、規模、重要度等により、照査内容項目を追加する必要がある場合等は、各様式の最後に添付した「追加項目記入表」を利用するものとする。また、予備設計や修正設計に本照査要領を活用する場合は、必要な照査内容項目を抽出して照査する。 4) 設計調書等A4判サイズでは記入困難な場合は、A3判に拡大して記入する。	設計業務照査要領	3	(記入方法及び提出) 5. 照査に使用する照査項目一覧表及び設計調書の記入者、記入方法及び提出は、次のとおりとする。 (4) 記入上の注意事項 1) 各報告段階において、照査内容が未定であったり、一度で確認がすまない場合や条件決定が順不同となる場合は、確認が済んだ事項に「○」印と「日付」を記入し、未確認の事項が明確になるように表示する。 2) 「照査項目」の中に、複数の確認事項がある場合（例えば関係機関協議が複数ある場合）または「照査内容」が漠然として発注者と受注者の確認の度合いが不明確になると思われる場合は、備考欄または別紙を利用して確認項目がわかるように記入する。 3) 業務内容、規模、重要度等により、照査内容項目を追加する必要がある場合等は、各様式の最後に添付した「追加項目記入表」を利用するものとする。また、予備設計や修正設計に本照査要領を活用する場合は、必要な照査内容項目を抽出して照査する。
	3	(照査状況の把握) 6. 照査状況の把握は、以下により行う。 (6) 監督員は、照査状況の把握後「照査項目一覧表」の表紙に署名し、受注者に返却する。		3	(照査状況の把握) 6. 照査状況の把握は、以下により行う。 (6) 監督員は、照査状況の把握後「照査項目一覧表」の表紙に記名し、受注者に返却する。

設計業務照査要領新旧対照表

編	頁	現行(青文字:改正箇所)	編	頁	改正(赤文字:改正箇所)
編	頁	現行(青文字:改正箇所)	編	頁	改正(赤文字:改正箇所)
道 路 詳 細 設 計 照 査 要 領 (平面交差点、小構造物を含む) 令和3年4月			道 路 詳 細 設 計 照 査 要 領 (平面交差点、小構造物を含む) 令和7年11月		

設計業務照査要領新旧対照表

編	頁	現行(青文字:改正箇所)				編	頁	改正(赤文字:改正箇所)			
編	頁	現行(青文字:改正箇所)				編	頁	改正(赤文字:改正箇所)			
道路詳細設計照査要領（平面交差、小構造物を含む）	基本条件の照査項目一覧表（様式1）	12	用排水処理	1)	用水系統は適正か。また、用水路の統廃合について、土地改良区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は整っているか。	12	用排水処理	1)	用水系統は適正か。また、用水路の統廃合について、土地改良区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は整っているか。		
				2)	排水系統は適正か（曲線部の片勾配高さを反映）。また、水路管理者等と調整を行っているか。			2)	排水系統は適正か（曲線部の片勾配高さを反映）。また、水路管理者等と調整を行っているか。		
				3)	盛土構造の基盤排水、法尻排水は適正か。また、切盛境、片切片盛り、沢部盛土等の排水処理は適正か。			3)	盛土構造の基盤排水、法尻排水は適正か。また、切盛境、片切片盛り、沢部盛土等の排水処理は適正か。		
				4)	調整池や油水分離柵設置の必要性や関係機関との協議結果を確認したか。			4)	調整池や油水分離柵設置の必要性や関係機関との協議結果を確認したか。		
				5)	流末協議（放流先や途中の既設水路）は適正に実施されているか。			5)	流末協議（放流先や途中の既設水路）は適正に実施されているか。		
		13	舗装工	1)	設計条件を確認したか。（交通量区分、舗装の設計期間、舗装の種類、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、設計C B R、必要T A、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等）	13	舗装工	1)	設計条件を確認したか。（交通量区分、舗装の設計期間、舗装の種類、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、設計C B R、必要T A、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等）		
				2)	仕様規定か性能規定を確認したか。			2)	仕様規定か性能規定を確認したか。		
				3)	規定条件を満足しているか。			3)	規定条件を満足しているか。		
				4)	再生材の使用は考慮されているか。また、再生材は所定量入手可能か確認したか。			4)	再生材の使用は考慮されているか。また、再生材は所定量入手可能か確認したか。		
				5)	特別箇所（軟弱地盤、低盛土等）の路床改良の要否を確認したか。			5)	特別箇所（軟弱地盤、低盛土等）の路床改良の要否を確認したか。		
				6)	路盤材料は市場性や地域性などを考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。			6)	路盤材料は市場性や地域性などを考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。		
		14	小構造物	1)	標準設計の適用方法は適正か。	14	小構造物	1)	標準設計の適用方法は適正か。		
				2)	重力式擁壁、ブロック積等を設ける理由、型式高さ等決定根拠は明確か。また、ブロック積の適用条件（切盛、荷重の有無）に問題はないか。			2)	重力式擁壁、ブロック積等を設ける理由、型式高さ等決定根拠は明確か。また、ブロック積の適用条件（切盛、荷重の有無）に問題はないか。		
				3)	プレキャスト製品の適用方法は適正か。市場性や地域性などを考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。			3)	プレキャスト製品の適用方法は適正か。市場性や地域性などを考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。		
		15	付属施設	1)	設計が必要な付属施設や道路施設は確認されているか。	15	付属施設	1)	設計が必要な付属施設や道路施設は確認されているか。		
				2)	配置及び規格は適正か。			2)	配置及び規格は適正か。		
				3)	種別及び設置条件は適正か。			3)	種別及び設置条件は適正か。		
				4)	設置のための事前調査は実施されているか。			4)	設置のための事前調査は実施されているか。		
				5)	防護柵の要否、設置基準の確認、種別の選択、設置条件、標準仕様の適用等は適正か。			5)	防護柵の要否、設置基準の確認、種別の選択、設置条件、標準仕様の適用等は適正か。		
		16	関連道路(側道、副道、取付交通)	1)	幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。	16	関連道路(側道、副道、取付交通)	1)	幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。		
				2)	沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。			2)	沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。		
				3)	舗装構成は決定しているか。			3)	舗装構成は決定しているか。		
				4)	関連協議で必要事項は確認されているか。			4)	関連協議で必要事項は確認されているか。		
		17	防雪対策	1)	雪崩、地吹雪対策は考慮する必要があるか。	17	防雪対策	1)	雪崩、地吹雪対策は考慮する必要があるか。		
				2)	雪況調査は実施されていたか。			2)	雪況調査は実施されていたか。		
				3)	対策工設置のための用地を設定したか。また埋設物や支障物件を確認したか。			3)	対策工設置のための用地を設定したか。また埋設物や支障物件を確認したか。		
IV-S6					IV-S6						

設計業務照査要領新旧対照表

編	頁	現行(青文字:改正箇所)		編	頁	改正(赤文字:改正箇所)		
編	頁	現行(青文字:改正箇所)		編	頁	改正(赤文字:改正箇所)		
道路詳細設計照査要領（平面交差、小構造物を含む）	細部条件の照査項目一覧表（様式2）	6	擁壁及び補強土壁	1)	6	擁壁及び補強土壁	1)	標準設計適用以外の設計計算は実施する必要があるか。
				2)			2)	擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。
				3)			3)	背面土の適用は適正か。（施工時の安定性等）
				4)			4)	目地間隔は適正か。
				5)			5)	液状化の検討は適正か。
				6)			6)	基礎工の選定は適正か。また、斜面上の基礎の場合、地盤の傾斜を考慮した検討を行っているか。 ・直接基礎(地盤反力、安定、置換深さ等) ・杭基礎(杭間隔、杭種、杭径、定着方式等)
				7)			7)	根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部での余裕幅は適正か。
				8)			8)	地下水、湧水等の処理について考慮してあるか。
				9)			9)	施工性を考えた構造となっているか。（地形その他の現場条件による機械の選定条件等）
				10)			10)	応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。
				11)			11)	耐震設計の方法は適正か。
				12)			12)	配筋に対するチェックはされているか。
				13)			13)	擁壁天端に作用する荷重は適正か。（衝突荷重、風荷重等）
				14)			14)	地下埋設物との取り合いは問題ないか。
				15)			15)	構造細目は妥当か。（使用鉄筋径、組合せ、かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、スターラップ筋の加工形状、補強材の長さ等）
				16)			16)	使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。
				17)			17)	想定している埋戻土の土質定数は適切か。
		7	排水工	1)	7	排水工	1)	排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。
				2)			2)	安全対策(蓋、防護柵等)は考慮されているか。
				3)			3)	流末はチェックされているか。（流末河川のHWLより 下の場合の対策が行われているか。）
				4)			4)	最終流末までの流下能力、断面に不足は無いか。
				5)			5)	排水系統図を作成しているか。また、排水系統は適正で、協議結果が反映されているか。
				6)			6)	現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、管理者の指定する基準等に準じているかを確認したか。
				7)			7)	設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。
				8)			8)	既設水路等の付替えは、必要に応じ切廻しを検討してあるか。
8	舗装工	9)	8	舗装工	9)	道路路面の片勾配摺付け区間において、路肩排水施設等の滞水は無いか。		
		10)			10)	排水ますと縦断サグ点との位置関係に問題はないか。		
		1)			1)	舗装工の設計は適正か。（舗装材料、舗装構成、構築路床等）		
9	小構造物	2)	9	小構造物	2)	段階施工のできる設計となっているか。		
		3)			3)	再生材の使用は適正か。		
		4)			4)	従道路及び車輛乗り入れ部の舗装構成は適正か。		
		1)			5)	「舗装種別選定の手引き（令和3年12月）」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。		
		1)			1)	標準設計適用以外のものは設計計算を実施する必要があるか。		
IV-S2				IV-S2				